

十和田市事務事業評価シート

担当課名	企画調整課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	17	整理番号	4
基本目標	人と自然が共生する「しぜん感動・創造都市」		
施策の展開方向	地域基盤の整備		
事務事業名	予約式乗合タクシーの運行		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費の詳細については別紙参照。

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
うち一般財源	1,345	4,258	6,000
うち国県支出金	1,345	4,258	6,000
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	路線バスが運休している区間の沿線住民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	予約式乗合タクシーを運行することにより、地域住民の公共交通を確保する
手段 (どのようなやり方で行うのか)	予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議に対して、経費を補助する

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	予約式乗合タクシーの1日当たり運行本数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	実績値	便/日	7.9	8.2	8.5	
活動指標 (活動の規模)	活動指標名	予約式乗合タクシーの1便当たり利用者数				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	
	実績値	人/便	2.2	2.1	2.2	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	予約式乗合タクシーの月当たり利用者数				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度	
	実績値	人/月	目標値		370	370
			実績値	345	347	
			達成度(%)		94%	
	成果指標名					
計算式等	単位	21年度	22年度	23年度		
実績値		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	4
計画No	17

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 路線バスが運休している地域を対象に、地域住民の交通手段を確保するため、予約式乗合タクシーを運行しており、市民ニーズは十分にある。 また、予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議を補助する仕組みであることから民間との競合はない。
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 運行時間帯や停留所などについては、利用者の意見を伺いながら、改善する余地がある。なお、平成21年度は利用者を対象としたアンケートを実施し、また、平成22年度は利用者との意見交換会を実施しており、事務事業の見直しを行っている。
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 予約式乗合タクシーの実際の運行状況に応じて運賃収入との差額を補助する仕組みとしており、可能な限り効率的な運営に取り組んでいる。なお、従来の市路線バス補助金に比べて、21年度5,085千円、22年度2,172千円、23年度430千円の削減となっている。 また、実際の運行に当たっては、ノウハウを持っている市内の民間タクシー事業者に委託している。
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済		2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 路線バスが運休している区間の沿線住民を対象に予約式乗合タクシーを運行しており、受益の偏りはない。 また、利用者からは従前の路線バス料金に準じた乗車料金を徴収しており、受益者負担は適切である。
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	19 / 20	改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

現状のまま継続

方向性の理由

地域住民の交通手段の確保という観点から、持続可能な予約式乗合タクシーの運行を確保する。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

利用実績や利用者ニーズ等を踏まえて、運行形態等の見直しを行うことで、利用者の増加と効率的な事業遂行を図る。

予約式乗合タクシーの事業費について

大下内地区・深持地区・切田地区で運行されていた路線バスが、乗客数の減少にともない平成21年9月末で、運休することになったため、代替の交通手段として平成21年10月から予約式乗合タクシーの運行を開始した。

費用負担については、運行開始後1年間(平成21年10月～平成22年9月)は、実験運行として国から運行経費の半額が補助されている(平成21年度後半及び平成22年度前半)。実験運行終了後は、市が単独で経費を補助している(平成22年度後半及び平成23年度以降)。

		運賃収入 A	運行経費 B	収支差額 A-B		
				国 補助金	十和田市 補助金	
21 年度	10月	127	537	-410	-205	-205
	11月	125	565	-440	-220	-220
	12月	161	612	-451	-225	-225
	1月	152	592	-440	-220	-220
	2月	160	606	-446	-223	-223
	3月	156	660	-504	-252	-252
21年度計		881	3,571	-2,690	-1,345	-1,345
22 年度	4月	131	653	-522	-261	-261
	5月	148	568	-420	-210	-210
	6月	147	662	-515	-257	-257
	7月	128	603	-475	-237	-237
	8月	132	627	-495	-247	-247
	9月	134	575	-441	-220	-220
	10月	135	606	-471		-471
	11月	144	619	-475		-475
	12月	147	582	-435		-435
	1月	139	590	-451		-451
	2月	152	629	-477		-477
	3月	168	684	-516		-516
22年度計		1,705	7,397	-5,692	-1,434	-4,258

平成23年度は、十和田市からの補助金**6,000千円**を予算計上している。